

# 世界児童画展 3人特別賞

## 星野学園幼稚園に団体賞

第48回世界児童画展（美育文化協会主催、読売新聞社など後援）の入賞者が決まり、県内では、上

尾市の星野学園幼稚園の佐藤碧人ちゃん（6）が読売新聞社賞、同園の白石裕音ちゃん（6）が全国造形教育連盟賞（いずれも特別賞）に輝いた。県内では73団体が計2370点を応募。特別賞のほか41点が特選、325点が入選となり、7人が特別賞、特選、入選になった同園が都道府県団体賞に選ばれた。表彰式は26日、東京・上野の東京国立博物館で行われる。

全国造形教育連盟賞

「きりんとせいくらべ」

白石 裕音ちゃん

（上尾市・星野学園幼稚園）



### 毛や動きを思い出し描く

笑みで受賞の喜びを振り返る。

遠足で訪れた東松山市の県立自然公園で、長い首を伸ばし、高い木の葉を食べるキリンの姿に目を奪われた。「かっこいい。背比べができたらいいな」と思い、仲良しの友達4人がそれぞれの肩に乗って背比べする様子を想像して描いた。自分は近くの木に登って葉を持った手を伸ばし、大好きなキリンに食べさせてあげようとして



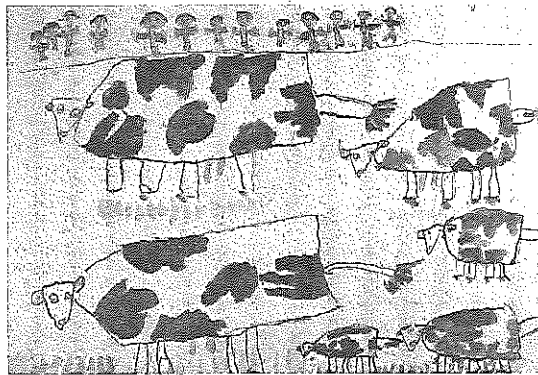
「頑張って描いたから、うれしかった」と、満面の

たくさんあった体の模様を、所狭しと描き込んで表現し、背中の毛や舌の色、動きを懸命に思い出して描いたという。

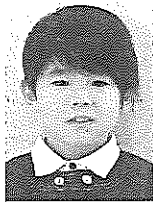
読売新聞社賞

「うしのかぞく」

佐藤 碧人ちゃん（上尾市・星野学園幼稚園）



### 牛の模様や草の色に工夫



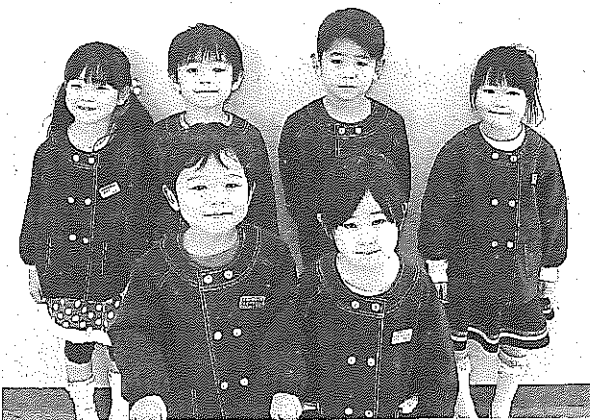
昨年9月、幼稚園の遠足で東松山市の県立自然公園を訪れた。白と黒のきれいな模様が体にある牛たちがたくさんいて楽しかったので、題材に選んだ。模様が体の線からはみ出さないように絵の具で描くのは難しく、慎重に描き進

めた。限られた大きさの紙の中で、「大好きな牛をいっぱい描けるように頑張った」と言う。

元気に草を食べていた牛の様子を、ぱちぱちした目で表現した。牛によってそれぞれ異なる模様や、足元の草の一部が日光に照らされて黄色に見えた様子も再現し、工夫を凝らした力作だ。受賞後、「うれし」と喜んだ。

### 1人特選、4人が入選

上尾市・星野学園幼稚園



都道府県団体賞を受賞した星野学園幼稚園の入賞者たち

上尾市の星野学園幼稚園は、園児50人が応募。特別賞の碧人ちゃん、裕音ちゃんのほか、平栗乃佳ちゃん（5）の「うしのおやこ」が特選、高木悠歩ちゃん（3）の「しまつま」、高橋龍叶ちゃん（4）の「きりん」、稲本楓香ちゃん（4）の「し

まつま、青野翼ちゃん（5）の「しまつまとあそぼう」がそれぞれ入選に選ばれた。福田多喜子園長は「大変光栄に思う。作品から園児たちの純粋な気持ちが伝わったのではないかと喜んで